



豊玉二中だより

令和3年度 第11号
発行日 2月1日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

中学生の本分

副校長 木原 賢三

2月は如月(きさらぎ)と呼ばれ、寒い冬が終わり、春に向かって万物が動き始める時期という意味があります。豊二中の生徒にとって1年間の様々な教育活動を通して、苦労したり失敗したりする中で、「自分探し」に取り組み、大きく成長していく時期となります。特に、3年生にとっては、真剣に自分を見つめて自分の進路を決定し、義務教育の最終学年としてまとめをして新しい社会に雄飛していきます。

これからの社会は、国際的にも科学技術的にも新しいことが生まれ、予測不可能な時代となる中、生徒自らが絶えず学び続け、知識を更新していくことが必要な社会となります。このような社会の中、新学習指導要領では、「生徒一人一人が、より良い社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力を身に付けることが必要である。」と示されています。それは、学び続ける存在としての主体を育成することが必要なのであり、未知の課題に対応した問題解決力を育て、その思考の仕方を指導していくことが重要であるということです。

さて、「学生の本分は勉強なり」といわれます。中学生が今一番やるべきこと、中学生の本分(その人が本来つくさなければならないいつとめ、その人にとっての本来的な義務)は、勉強や部活動などに打ち込むことだという意味です。では、「勉強」と「学び」とはどのように違うのでしょうか。「勉強」は、物事を習い覚えるという意味もありますが、「努力して困難に立ち向かうこと・気が進まないことをやること」という意味があります。一方、「学び」は「まねぶ」(真似ぶ)から始まっているといわれ、手本や周りがやっていることを真似、積極的に技術・知識を習得するという意味です。現在の社会において、「勉強」は必要です。気が進まないことであっても、時には自分を奮い立たせて向かわなければならないことがあります。しかし、本当に身に付くこと、そして、自分の成長にとって大切なことは「学ぶ」ことではないでしょうか。楽しいと思えること、ワクワクすること、自分がこれなら「熱中できる」と強く思うことができるもの、そのような「学び」を続けていくことが自分自身を高めていくことにつながっていくことでしょう。

本校では、『めざす生徒像』の1つに「自分探し」に取り組み、努力する生徒をあげています。成功や失敗などの体験を通して努力することの価値を理解し、何事にも前向きに「学ぶ」ことができる生徒の育成をめざします。そのため、全ての教育活動において、「自分らしく生きるとはどのような生き方なのか」を考え、自分がやりたいことを探求し、やりたいことについて「学び」を続けていく、目的を設定した勉強をすすめていくことができるようにしていきます。そのためには、生徒自身が今まで別々に捉えていた各教科の内容を相互に関連付け、学ぶ意義や学ぶ必要性などを実感できるような授業を実践することが重要になります。生徒全員が、将来より良い人生を送るために、生徒にとって楽しく学びがいがあがる分かりやすい授業になるように、一層取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。